

高校生をもつ保護者の皆さまへ

# 地方の 国立大 の魅力

ダイジェスト版

世界から  
学生が集う

面倒見がよい

ST比(学生数/専任教員数)  
が低い

人との繋がり

学生が  
まじめ

大学まで  
徒歩10分

自立  
できる

第2のふるさと

安全で  
安心な環境

学費が安い

多様な学生

家賃が  
安価

自然  
豊か

全国から  
学生が集う

個性的な  
研究

地域産業界  
との連携

丁寧な  
教育と指導

地域に  
根ざしている

地域から期待される

地域の砦

とことん  
研究できる



# はじめに

国立大学といえば、大都市に設置され知名度の高い“旧帝国大学”(現在の東大・京大・東北大・北大・九大・阪大・名大)や、“旧六医大”(現在の千葉大・金沢大・新潟大・岡山大・長崎大・熊本大)は、ご存じかもしれませんが、しかし、旧帝大・旧六医大だけが、国立大学ではありません。**国立大学は、私立大学とは異なり、大都市を中心に設置されているわけではありません。日本全国47都道府県すべてに設置されています。**たしかに地方に位置する国立大学は、地元以外では知名度がないかもしれませんが、しかし、全国全ての国立大学がその地域に根差し、その地域だからこそ可能な【教育】【研究】【社会貢献】に取り組んでいます。地方に位置する国立大学であっても、**個性的で突出した【教育】【研究】**を行っています。

そして、地方の国立大学には、学生が落ち着いて勉学に取り組める、“キャンパスライフ”があります。少人数での学び、充実した研究指導、教員との綿密なやりとり、全国から集まる先輩・同級・後輩との出会い、世界各国から来日する留学生との交流、アパートの大家さんや美容院・床屋のマスターといった地域の大人とのつながりがあります。多様な人々と出会い、タテ・ヨコ・ナナメの人間関係を構築できる、“機会”と“時間”があります。目には見えませんが、温かく学生を見守り期待してくれる地域社会と、学生を優しく支えてくれる地域の大人が、存在します。

戦後の1949(昭和24)年、国立大学は原則各県1校、全国各地に設置されました。以来70年以上に渡って、このキャンパスライフは各地の地方国立大学において引き継がれています。だからこそ、地方の国立大学に進学すると、4年(ないし6年)を通して、子どもは自立し人間的に大きく成長することができます。

もしも、大学進学を選択肢を「親が知らない」ことで、子どもの人生の可能性を狭めてしまったら、どうでしょうか。「自宅から通学できる大学しか認めない」と考えられる前に、または「有名私立大学を志望校に」と捉える前に、“地方の国立大学”への進学メリットをぜひご認識ください。

この冊子では、富山大学を例にして、7つの側面から地方の国立大学の魅力をまとめました。

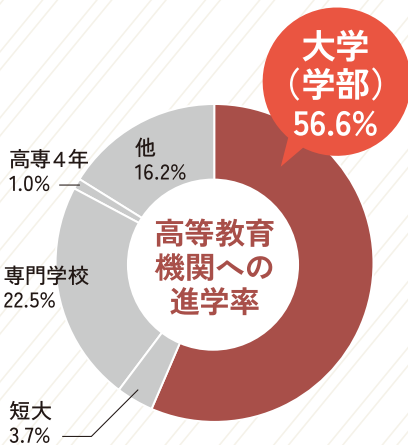


## 現在の大学進学状況と国立大学

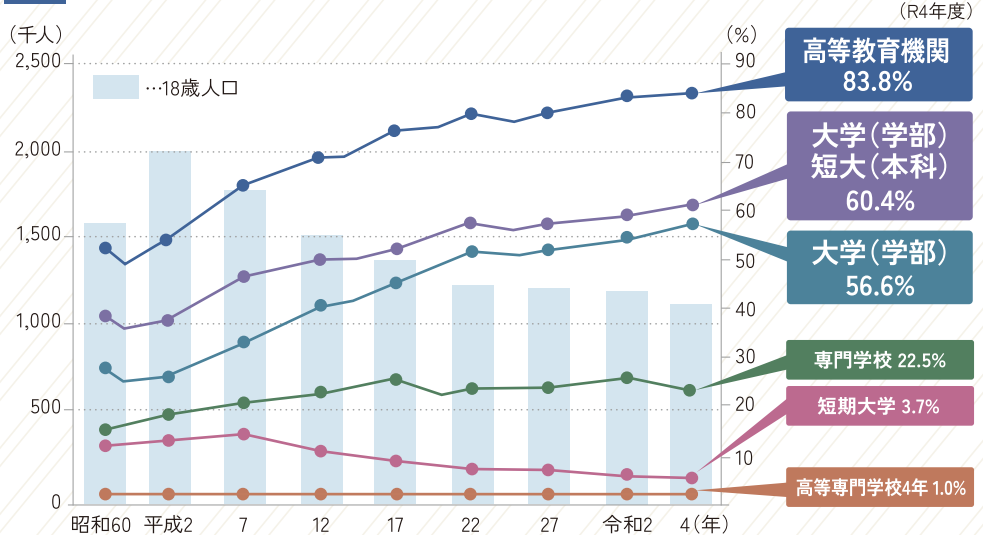
文部科学省発表の「令和4年度学校基本調査」(令和4年5月1日時点)によると、「**大学(学部)進学率**」は**56.6%**で過去最高となりました。短期大学を含めれば60.4%、専門学校等も含めれば83.8%で、高校卒業者の半数以上が大学へ、8割以上が高等教育機関へ進学しています(図表1)。

少子化が進む一方、大学進学率は上がり続けています。保護者のみなさまが、子どもと同年代であった(であろう)約30年前の1993(平成5)年では、**大学(学部)進学率は3割未満でした。**大学進学状況は、この30年の間で大きく変化しています(図表2)。

図表1 高等教育機関への進学状況 (R4年度)



図表2 高等教育機関への進学率の変化

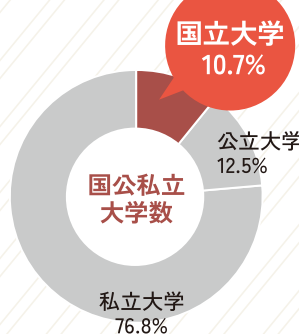


少子化が進む中で大学進学率は上がり続けるとともに、大学の数が年々増加しています。令和4年度時点で、日本全国に設置される大学総数は807大学で、うち**国立大学は86大学**(大学院大学4校を除くと82校)、公立大学は101大学、私立大学は620大学です(図表3)。つまり、「**約10大学に1大学が国立大学**」という割合です。

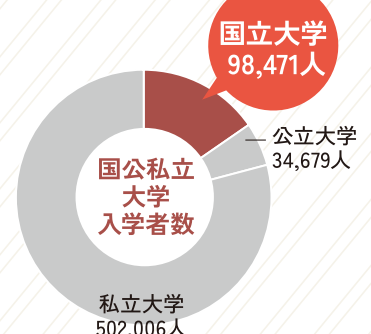
また、令和4年度の大学入学の新入生総数は635,156人でした。そのうち、**国立大学入学者は98,471人で約10万人**、公立大学は34,679人、私立大学は502,006人でした(図表4)。つまり、「**約6人に1人が国立大学生**」という割合です。

日本の大学において、私立大学は数の上でも、入学者数の上でも大多数を占めますが、その立地の75%は三大都市圏(首都圏・京阪神・愛知県)であり、それ以外の地方に立地する私立大学は25%です。

図表3 大学総数に占める国公立大学の割合 (R4年度)



図表4 大学入学の新入生総数に占める国公立大学の割合 (R4年度)



# 1 教育面 研究面

## 子どもを大学進学させる目的は？ そもそも大学の目的は？



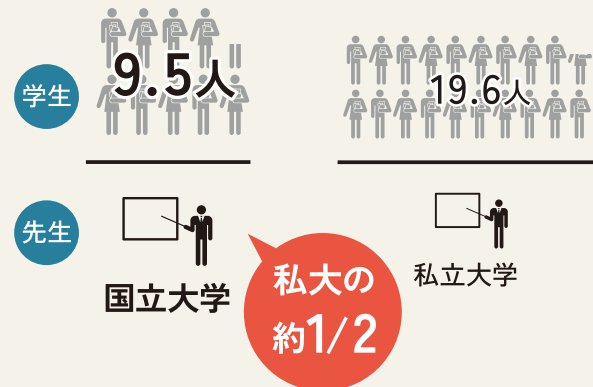
大学の目的は【教育】と【研究】。  
学歴(どこを卒業したか)よりも、学修歴(何を学んだか)重視へ。

学校教育法第83条によると、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」とされ、「大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」と記されています。つまり、大学は【教育】【研究】【社会貢献】を目的とし、その中でも【教育】と【研究】は大学の根幹を成しています。しかしながら、高校生や保護者のみなさんに、【教育】や【研究】はあまり理解されていません。大学は【教育】と【研究】を目的としていますので、【金銭】や【就職】よりも、まず第一に重視すべきことです。社会では、学歴(どこの大学・学部を卒業したか)よりも、学修歴(何を学んだか)を重視する傾向が強くなってきており、今後ますます大学での【教育】【研究】の活動歴が重要になります。

### 1 教員1人あたりの学生数 (ST比)

国立大学と私立大学の違いに、「学生数と教員数の比率」があります。令和4年度「学校基本調査」の学生数(学部+大学院)と本務教員数から、「教員1人あたりの学生数(ST比)」を算出したものが図表5です。国立大学は9.5人に対し、私立大学は19.6人です。いわゆるマンモス大学と呼ばれる巨大な私立大学の場合、30~50人に達する大学もあります。富山大学は、学生数9,208人に対して、常勤教員は779人で、「教員1人あたりの学生数」は11.8人になります(富山大学2023年5月1日時点)。

図表5 国立大学と私立大学のST比の違い



### 2 “少人数”の指導

学生は「教育」を受けるだけではなく、教員とともに専門領域の「研究」に取り組むのが大学です。理系であれば実験・実習を行う「研究室」配属、文系であれば対話・議論を行う「ゼミナール(ゼミ・演習)」配属があります。配属の年次・期間・しくみは大学によって異なりますが、基本的に「少人数」による教育研究の指導機会と位置づけられます。図表6は、富山大学の学部別「令和5年度入学者数(A)」と「専任教員数(B)」を示し、(A/B)が「教員1人あたりの指導見込」です(富山大学2023年5月1日時点)。研究室やゼミナールの学生数について、どの程度までを「少人数」と捉えますか。教員1人あたりの指導学生数が、10人を超えるような場合、「少人数」といえますか。大学(学部)によって、「少人数」の解釈と実数が大きく異なりますので、ご注意ください。

図表6 富山大学学部別入学者数と教員数 (R5年度)

学部	(A)	(B)	(A/B)
	R5年度入学者数	専任教員数	教員1人あたりの指導見込
人文	192	46	4.2
経済	369	56	6.6
教育	86	55	1.6
芸文	115	37	3.1
医	195	254	0.8
薬	113	75	1.5
理	202	67	3.0
工	381	88	4.3
都市	169	58	2.9
全校	1,822	736	2.5



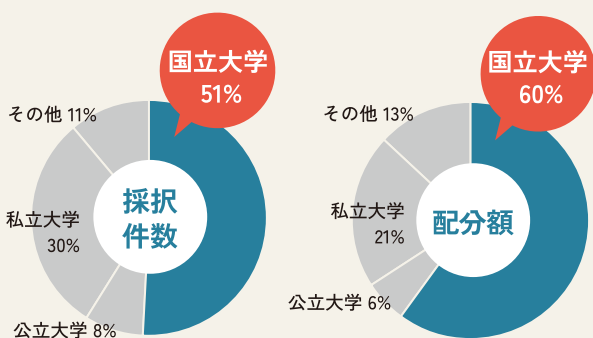
**研究室とは**  
自然科学系の学問分野における、各専門分野の教員の執務スペースで、実験室や実習室等を兼ねる。教員と学生(院生含む)がチームで協働し研究を行う。学部4年次に卒業研究を行うことが多い。

**ゼミナール(ゼミ)とは**  
人文・社会科学系の学問分野における、少人数の対話形式型授業科目。教員と学生が双方向に議論を進めることで、理解や認知を深める。学部4年次に卒業論文を書くことが多い。

### 3 「研究」に必要な科学研究費

科学研究費とは、すべての学問分野における学術研究を進展させることを目的とした、「競争的研究資金」で文部科学省ならびに日本学術振興会による助成事業です。その採択件数について令和4年度を確認すると、採択者の所属別では、国立大学が約半数、私立大学は3割です。配分額では国立大学は約6割、私立大学は約2割です。大学の数では、私立大学が620大学に対し、国立大学は86大学にすぎません。大学の数の上では少ない国立大学ですが、科学研究費の件数と配分額は高い占有状況です。

図表7 科学研究費機関種別採択件数と配分 (R4年度)



### 4 “地の利”を活かした「教育」「研究」

学生確保の観点から都市部中心に乱立する私立大学とは異なり、国立大学は全国各地に立地しています。そのため、その地域に根差し、その地域でしかできない、特色ある「教育」「研究」を行っています。例えば、富山県は江戸時代から続く薬売りの伝統があります。富山では、1893(明治26)年設立の共立富山薬学校から薬業に関わる人材育成に取り組んでおり、現在の富山大学薬学部へと継承されています。現在、富山県は「薬都とやま」として、新薬開発、特殊剤、ジェネリック、大衆薬、配置薬、原薬など多彩なメーカーと、包装容器やパッケージ印刷等の周辺産業も集積する一大拠点となっています。「世界の薬都」と言われるスイスのパーゼルと富山県は2009(平成21)年より交流協定を締結し、医薬品分野の交流推進を行っています。2年に1度、相互にジョイントシンポジウムを開催し、両地域の大学・製薬企業の研究者や学生が参加しています。

### 5 「教育」「研究」に必要な施設・設備

国立大学には、緑豊かなキャンパスはありますが、煌びやかで豪華な施設は存在していません。教育研究を行うのに必要な、施設・設備が整備されています。例えば、富山大学には以下の施設・設備があり、学生は教育研究の場面で活用しています。



- 〈富山大学の教育研究施設(一部)〉
- 【人文学部】心理相談室
  - 【教育学部】附属学校園(中学校・小学校・幼稚園・特別支援学校)
  - 【理学部】立山施設、重力波研究実験室
  - 【工学部】創造工学センター
  - 【医学部】附属病院 【薬学部】薬用植物園
  - 【芸術文化学部】附属技藝院、工芸史・工芸技術史研究室
  - 【薬学】民族薬物資料館
  - 【先進アルミニウム国際研究センター】軽金属材料共同研究棟



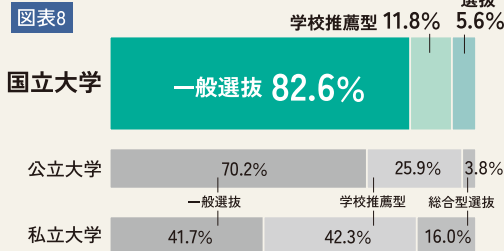
本来、入試はその大学・学部で学ぶために必要な能力を評価するための機能。

学力不足の早期合格は入学後の課題に。

少子化が進行しているにも関わらず、大学数は私立大学を中心に年々増え続け、私立大学の約半数が入学定員を確保できていません。私学事業団による『令和5年度私立大学・短期大学等入学志願動向』によれば、私立大学600大学中320大学(53.3%)が入学定員未充足です。そのため、大学によっては学生確保のために年内入試を積極的に導入し早期申込を行ったり、能力評価を甘くし安易に合格させてしまう大学も存在しています。入試は、その大学・学部で学ぶのに必要な能力を評価するためのものです。もし合格できたとしても、入学後に大きな問題となかなかねません。

## 1 入試区分の現状

文部科学省がとりまとめている「令和4年度国公私立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」から、入試の3区分(一般/学校推薦型/総合型)の割合を示したものが図表8です。国立大学では一般選抜の入学者が82.6%に対して、私立大学では一般選抜は41.7%で、学校推薦型の入学者42.3%の方が高くなっています。



## 2 大学入試の問題

～早期合格が抱える  
修学リスク～

能力評価としての入学者選抜の機能が低下している大学には、様々な課題が存在しています。例えば、早期合格を積極的に推進している大学では、入学予定者の「学習習慣の喪失」「入学までに学ぶ意欲減退」「基礎学力不足による入学前教育の必要性」、そして入学後における「大学で学ぶ学力の欠落」「リメディアル教育の必要性」「必要単位の未修得」「修学意欲の低下」「学部・学科選びのミスマッチ」「中途退学」へ、繋がるリスクがあります。

「早期合格」を目指す、大学で学ぶ本来の目的を見失います。入学後についていけないという事態になるかもしれません。教育の質保証が求められる今、大学後の学びは30年前の大学と大きく異なります。

## 3 「大学で何を学ぶか」 で受験

国立大学を目指す受験生は、「学びたい分野(学部・学科・コース)がある」ことを重視して、大学・学部の選択を行う傾向が強いです。例えば、富山大学の場合、受験理由として「学びたい分野(学部・学科・コース)がある」ことを受験理由に挙げた入学者は8割を占めています。



大学での出会いは、一生もの。  
どんな学生と出会い、ともに学び、語らうか？

多様な出身地と価値観の学生との出会いが有。

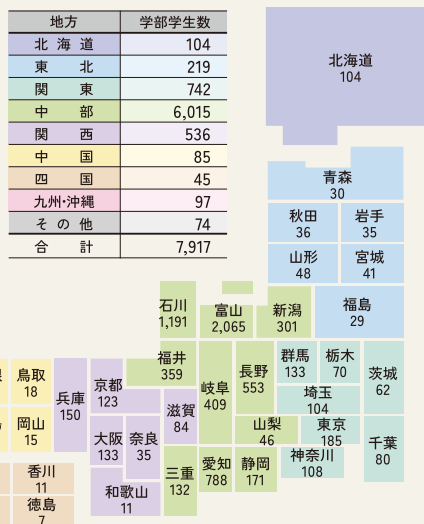
多様性のある環境で学ぶことで、複眼的視野と気づきを得ることができます。社会に出た際に、多様性を受容し相手を認めて協働していく力を得ることができます。



## 1 全国から集まる

地方の国立大学には、全国各地から学生が集まります。特定の地域からしか学生が集まらない大学では、学生の同質性が高く画一的になりがちですが、全国から集まる大学では多様な価値観・風土・食文化・方言の学生たちが出会い、刺激し合う環境があります。富山大学の学部生の出身を示したものが図表9です。7,917名のうち、富山県出身者は2,065名(26%)で、富山県外の出身者は5,852名(74%)です。北海道から沖縄県まで全国から学生が入学しています(富山大学2023年5月1日時点)。

図表9 富山大学の都道府県別在籍生数(学部生)



## 2 世界から集まる

地方の国立大学には、日本国内のみならず、海外の学生も在籍しています。大都市圏に比べると、「低コストな生活環境」、日本の「自然」「四季」「ふるさと」を感じられることも海外留学生にとって地方の国立大学は魅力のようです。富山大学では、19か国・地域の42機関と大学間交流協定を、26か国・地域の97機関と部局間交流協定を締結しています。外国人留学生は毎年約300名、在籍しています。アジア15か国、ヨーロッパ6か国、アフリカ4か国、北中南米3か国等、アジアを中心に世界各国の留学生が学んでいます(富山大学2023年5月1日時点)。

## 3 とともに学ぶ

大学では低学年次を中心に、「共通教育」「教養教育」と呼ばれる幅広い授業科目を履修し学ぶしくみになっています。その際、他学部の学生と一緒に講義を受講できる大学もあります。「1年次は1キャンパス」で学んでいる国立大学として、富山大学、信州大学、山形大学等があります。多様な学部を有する総合大学では、学部の垣根を越えて他学部生と交流できる機会があります。9学部がある富山大学では、1年生全員が五福キャンパスで学び、141科目642クラスの豊富な科目から講義履修が可能です。



# 充実した大学生活を送るには？ 価値ある時間の使い方が重要！

Time is Money



## 地方のひとり暮らしの真のメリットは時間の有効活用。

子どもの大学進学に対する保護者の関心事として、金銭面は外せません。大学に支払う「学費」(授業料等)は、額面の金額だけでなく「教育研究の質」や「教育・研究の環境」を確認することが、重要です。「生活費」は、当然ながら「実家暮らし」が最も安価であることは事実ですが、「生活費」の中で最も高い割合を占めるのは「家賃」です。東京でひとり暮らしの家賃相場は「6~10万円」と高価ですが、地方では「2~5万円程度」が相場で安価です。また、目にみえない「時間」をお金に換算して捉えれば、「通学にかかる時間」は必ず考慮すべきです。大学進学にかかるコストを、部分的に見るのではなく、大学生活全体でお考えいただくことをおすすめします。

(単位:円)

### 1 学費

図表10

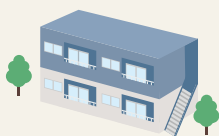
	国立大	公立大	私立大・文科系	私立大・理科系	私立大・医歯系
入学金	282,000	391,305	225,651	251,029	1,076,278
授業料	535,800 / 年×4年 2,143,200	536,363 / 年×4年 2,145,452	815,069 / 年×4年 3,260,276	1,136,074 / 年×4年 4,544,296	2,882,894 / 年×6年 17,297,364
施設設備費	—	—	148,272 / 年×4年 593,088	179,159 / 年×4年 716,636	931,367 / 年×6年 5,588,202
合計	2,425,200	2,536,757	4,079,015	5,511,961	23,961,844

図表10は、大学別にかかる4年間(私立大・医歯系は6年)の学費(入学金・授業料・施設設備費)に関する金額です。

国立大と公立大の場合、学部が文科系/理科系/医歯系であっても、1年間の授業料は変わりません。私立大学の場合、学問系統によって金額が大きく異なります。

・国立大は「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」で定める大学(学部)の納付金の標準額・公立大は文部科学省「2021年度学生納付金調査結果」(大学昼間部95大学平均値、入学金は地域外)・私立大は文部科学省「令和3年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額の調査結果」

### 2 生活費の最大コスト 住居費(家賃)



生活費に占める最も大きなコストは、住居費としての「家賃」(アパート・マンション等の賃貸契約の1か月毎の支払金額)です。都市部の場合、中心部になればなるほど高額です。地方国立大生の場合、総じて大学周辺に住居することが多いため、家賃相場は安価です。例えば、ひとり暮らし用のアパート・マンションの1か月の家賃相場を「東京」で考えると、平均的な物件で8万円、安めの物件で6万円です。地方の「富山」で考えると、平均的な物件で4万円、最安物件で2万円程度です。

重要なことは、1か月に支払う家賃の差を「年間」で考えると、かなりの「相違」となることです。東京と富山の「平均的な物件」の家賃は8万円と4万円であり、その差は「4万円」です。1年間で考えると、4万円×12か月=48万円となります。大学生活4年間で計算すれば、48万円×4年間=192万円です。およそ200万円もの差が家賃の違いで生じることになります。

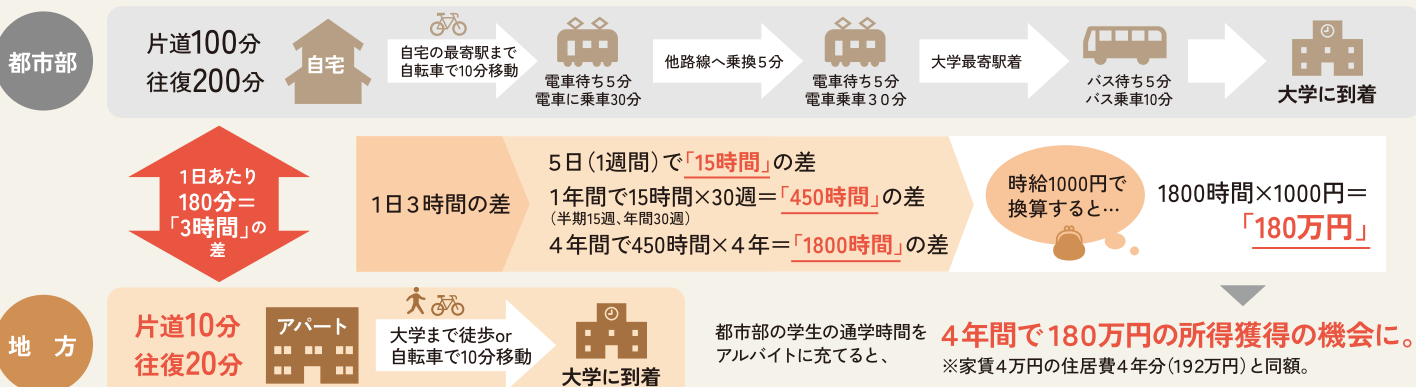
#### 4年間の家賃総額の想定算出

富山の安め物件だと...	1ヵ月 2万円 × 12ヵ月 × 4年 =	96万円
富山の平均的な物件だと...	1ヵ月 4万円 × 12ヵ月 × 4年 =	192万円
東京の安め物件だと...	1ヵ月 6万円 × 12ヵ月 × 4年 =	288万円
東京の平均的な物件だと...	1ヵ月 8万円 × 12ヵ月 × 4年 =	384万円

もし1か月の家賃が2万円違えば、4年間で **約100万円の差**  
 もし1か月の家賃が4万円違えば、4年間で **約200万円の差**  
 もし1か月の家賃が6万円違えば、4年間で **約300万円の差**

### 3 「自宅から大学」想定されない通学時間と機会損失

「自宅から大学」に通う場合、通学時間は何分ですか。「自宅の玄関」を出て「大学の講義室」に着くまでどのくらい時間がかかりますか。実際に測りましたか。通学にかかる時間は、電車乗車の時間だけではなく、もし、以下のような行程で通学する場合、【電車乗車の時間】は「60分(30分+30分)」であっても、【ドアtoドア】の移動時間は片道「100分」、往復「200分」です。



地方の場合、ひとり暮らしの学生の多くが大学周辺のアパート・マンションを借り生活しています。そのため、通学は徒歩または自転車で、片道「10分」、往復「20分」程度です。上記の通学にかかる時間が片道「100分」、往復「200分」の都市部の学生と比較すると、1日あたり「180分」の違いとなります。180分は「3時間」ですので、1日24時間のうちの「3時間」が1日の差として、通学時間で発生します。1週間は月・火・水・木・金の5日間なので、1週間で3時間×5日で「15時間」の差になります。大学は半期15週で授業進行するケースが多く、年間では30週で授業があります。そのため、1年間でみると15時間×30週、つまり1年間で「450時間」の差となり、4年間で450時間×4年で「1800時間」の差となります。もし、時給1000円のアルバイト活動にこの通学時間を充てれば、1800時間×1000円で「180万円」となります。この金額は、地方で平均的な家賃4万円の住居費4年分192万円(4万円×12か月×4年間)とほぼ同額です。

「時は金なり」です。金銭面が気になるのであれば、時間の使い方の工夫のほうが重要です。また、子どもの自立はお金では買えません。



# 親元を離れることで、生活力だけでなく、社会で活かせる汎用的能力の習得が可能。

## ひとり暮らしは、「自立と成長」のチャンス！

地方の国立大学では、実家を離れひとり暮らしを行う学生が多くいます。親元を離れ日常生活を自分自身で営むことで、生きるための基礎力を身につけるだけでなく、自己管理能力も習得できます。自己管理能力は社会に出て仕事を行っていくにも必要な汎用的能力であり、国立大学生が就職活動時に高く評価される理由のひとつです。ひとり暮らしを、コストとしてとらえるのではなく、自立のための鍛錬の場として子どもの成長を期待できます。

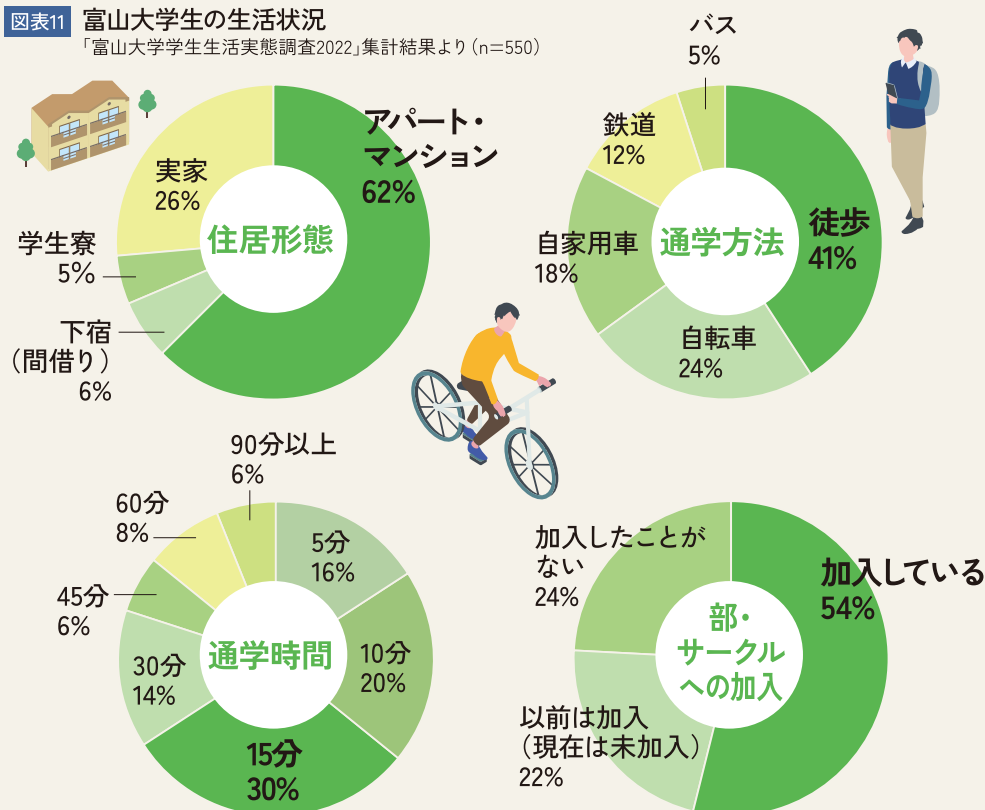
### 1 生活力 (自立のための基盤力)

大学入学とともにひとり暮らしを行うことで、実家ででの生活の複雑さ、親の偉大さを実感できます。衣・食・住に関してすべて自分で対処することで、生活習慣や生活リズムを自分で工夫することができるようになります。食事(自炊or外食or弁当購入)、洗濯、買物、掃除、ごみ捨て等を通じて、「自分で意思決定をし行動することの重要性を、日常生活から学ぶことができます。これは、実家暮らしの学生では得ることができない、「自立のための生活基盤力」の習得に繋がります。

### 4 集団での他者との協働、役割理解

地方の国立大学生でひとり暮らしをしている学生の多くは、「通学時間」という概念がありません。大学まで「徒歩」「自転車」で「15分以内」という学生が大半だからです。1日24時間のうち通学にかかる時間がわずかなため、勉強や研究はもちろんのこと、課外活動(部活・サークル・アルバイト・ボランティア・インターンシップ等)に使える時間が膨大にあります。学内外の様々な団体に所属し、学生同士や大人との接点を多数もち、ひとつの目標に向かって他者と協働したり、集団の中で自分の役割をみつけ行動することを経験できます。富山大学生では、部・サークル活動の加入状況は、コロナ禍の2022(令和4)年10月時点において、加入(経験)率は76%でした。富山大学生の生活状況は図表11です。

図表11 富山大学生の生活状況  
「富山大学学生生活実態調査2022」集計結果より(n=550)



### 2 自己管理能力 [Self Management]

ひとり暮らしを継続することで、自己管理能力(セルフマネジメント力)を身につけることが可能です。国立大学生が就職活動時に高く評価される能力であり、大学卒業後(大学院修了後)、社会で働くにあたって仕事においても活かせる汎用的能力です。



#### 1 時間管理能力 [Time Management]

起床・就寝の睡眠時間、勉強・サークル・アルバイト・家事等の時間の配分と活用。

#### 2 金銭管理能力 [Money Management]

仕送り・奨学金・アルバイト給与等の「収入面」と、家賃・食費・買物・遊び代等の「支出面」の調整。

#### 3 健康管理能力 [Health Management]

食べ過ぎ・野菜不足・睡眠不足・運動不足・過剰なスマホ利用等の回避と、定期的な健診(歯・眼等)。

#### 4 リスク管理 [Risk Management]

もしもの事態(虫の侵入/鍵の紛失/PCの破損/病気/ケガ/事故/盗難)への対応。

### 3 助け合い・思いやり

多くの学生が実家を離れてひとり暮らしをしている地方の国立大学において、学生が困った場合に遭遇した時、親がすぐに駆けつけることは困難です。そのため、学生同士のタテのつながり(「先輩」と「後輩」の関係)やヨコのつながり(「同級生」や「同じ授業の履修者」)が頼りになります。サポートしてくれる「先輩」「同級生」の姿を通して、他者を思いやることの大切さを学びます。自分に「後輩」ができて自分が「先輩」になった時、自分によくしてくれた「先輩」の姿を思い出し、自分の「後輩」に対して、思いやりをもって接することができます。

#### ケース1

風邪をひいて高熱を発症、薬を飲んだものの体がだるくて動けない。

先輩に相談したら、スーパーで欲しい飲料や食材を購入してきてくれた。

#### ケース2

足を怪我してしまい病院に通院したいが、自転車に乗れない。

車を持っている先輩が、毎週、家から病院まで車で送迎してくれた。

#### ケース3

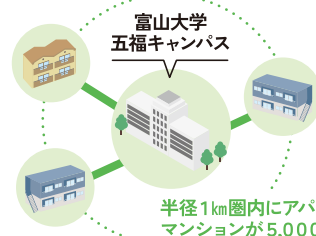
アルバイトはまだ未経験。さて、どんなアルバイトを始めよう。

サークルの先輩に相談したら、アルバイトを紹介してくれて安心して働くことができた。



### 「学生街」だからこそ刻まれる、学生時代の記憶

地方の国立大学の学生は、大学周辺のアパート・マンションに居住しているため、「学びの場」と「暮らしの場」が一体化しています。「勉強に励んだ学生時代」「懸命に取り組んだ部活動」「一生の友との出会い」「第2のふるさと」といった思い出を語る卒業生が多くいます。学生街で友人と「勉強」「部活動」等に取り組む、密度の濃い充実した学生生活の記憶は、鮮明に刻まれます。地方の国立大学とその周辺の「学生街」という「社交空間」を経験することで、社会性と他者との関わりを学び、人間的に成長できます。親元を離れることで得られる、大きなメリットです。



# 6 進路面




## 学生のキャリアは、大学の「面倒見の良さ」で形成されるものではない。本人の自立が重要。

本人の意思と自立、大学は「寄り添うサポート」。

子どもの就職活動が不安で、大学に「面倒見の良さ」を求める保護者が一部います。冷静に考えてください。就職活動を行うのも、社会に出て働くのも、子ども本人です。大学の就職相談員も保護者のみなさんも、学生本人の就職活動に同行はできません。同行できたとしても、面接会場に一緒に入室できません。もし入室できたとしても、入室した瞬間に、「自立していない」ことを理由に、不採用となることでしょう（特別な配慮が必要な場合を除きます）。そのため、大学のキャリア教育や就職支援に求められることは、学生本人が自らの意思をもち、文章や口頭で自らの考えを大人の社会人に説明し伝えられる力を、就職活動の前までに身につけることです。大学がいくら「面倒見の良さ」を発揮しても、本人の意思がなければ、就職できたとしてもすぐに辞めてしまいます。

### 1 「ガクチカ」を証明する経験とプロセス

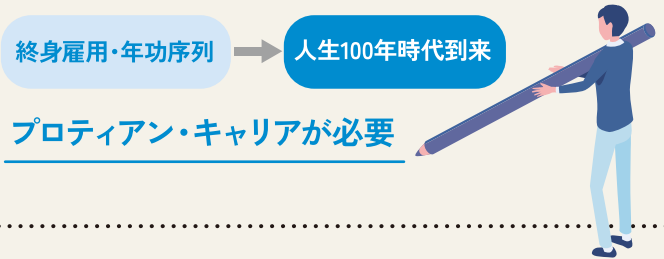
コロナ禍に就活を行った学生は、外出制限となり学生時代の活動履歴が何もなかったとして、就活時の必須質問「学生時代に力を入れて取り組んできたこと」(略称「ガクチカ」)に答えることができなかった...という話があります。しかし、本当にそうでしょうか。ひとり暮らしをしていれば、日々の生活が小さな課題と困難の連続です。「限られたお金で毎月のやりくりをする」ことでさえ、ガクチカになりえます。実家で過ごし何もなかった学生ほど、語るネタがなかったと言えます。また勉強や研究を懸命に行っていたら、十分にガクチカとして語れるはず。普段の大学生活そのものが、自立と成長のサイクルがあるのが、地方の国立大生です。「ガクチカとして語れるものが何もない」ということは起こりにくく、採用する企業・団体の評価が高いのが、国立大生です。



**新入生向けキャリア形成冊子**  
**「はじめての就活 大学受験のその先を！」**  
 富山大学では、新入生に今後のキャリアを早期から考えてもらおうと、**学生キャリアサポーター(就職・キャリア支援センター付の学生ボランティア団体)**が企画・制作した新入生向けキャリア形成冊子「はじめての就活 大学受験のその先を！」を新入生に提供しています。新入生に対して、先輩学生が自立を促しています。

### 2 プロティアン・キャリアの必要性

プロティアン・キャリアとは、「社会の変化に応じて自分の意思で自由に姿を変え、形成していくキャリア」のことです。終身雇用や年功序列の社会から、人生100年時代到来の社会へと変わりつつあります。AI技術の進歩が加速し、変化の激しい社会へと変わっていきます。社会の変化に柔軟に適応していく中で、自分はどうあるべきか、自らの「意思」が求められます。そのため、大学を卒業して初めて社会で働くその選択において必要なことは、大学による手厚い「面倒見の良さ」ではなく、自分で自らのキャリアを選択する「意思」です。大学の役割は寄り添う「サポート」を提供し、学生をバックアップします。学生の自立が促されなければ、社会に出てからも、他者による「お世話」を求めてしまいます。働き方や生き方が多様化する中で、絶対的な正解はありません。最適解を自ら模索し、自立して自己選択していくことが求められます。



# 7 期待面

## 地方には、学生を育む風土と文化、理解が有。地方の国立大生は、地域の活力であり宝！

若者が都市部へ流出しやすい県においてほど、地方の国立大生は、地域住民から大切にされます。「期待されている」という実感と地域との関わりが、学生の自信に繋がります。大学生の数が多すぎる都市部にはない、「自分は大事にされる存在である」という認識が、行動力のある学生へと変容させていきます。

### 1 地方の国立大学生は地域の中核人財

数多くの大学が存在する都市部(特に学生数1万人以上の大規模大学が存在する都市部)の地域では、大学生は地域社会の中でまったく珍しくない、「平々凡々な存在」として見られがちです。しかし、大学の数自体に限られる地方においては、その県の国立大生は「地域の活力」であり、「地域の宝」であり、地域を盛り上げてくれる「起爆剤」です。図表12は、県人口に占める国立大学生の割合(1県1国立大の県のみ)を示したものです。例えば、富山県の人口は101.7万人で、富山大学の学生数は9,279名です。県人口に占める国立大学生の割合は0.9%です。「若者」を代表する声として大学生の意見は取り上げられ、地域社会は温かく学生を見守ってくれます。地方の国立大の学生たちは、地域を変えたい「企画者」であり、「提案者」であり、「実行者」でもあります。地域社会自体が学生のサポーターであり、地域の行政・企業・団体は、学生たちの活躍を期待し、注目してくれます。

富山県人口  
**101.7万人**

富山大学学生数  
**9,279名**

県人口に占める  
国立大学生の割合  
**0.9%**

図表12 県人口に占める国立大学生の割合(1県1国立大の県のみ)

地方	県	県人口	国立大学		県人口に占める国立大学生の割合
			大学名	学生数	
北東北	青森県	1,204,000	弘前大学	7,062	0.6%
	岩手県	1,181,000	岩手大学	5,446	0.5%
	秋田県	930,000	秋田大学	5,247	0.6%
南東北	山形県	1,041,000	山形大学	8,726	0.8%
	福島県	1,790,000	福島大学	4,407	0.2%
北関東	栃木県	1,909,000	宇都宮大学	5,110	0.3%
	群馬県	1,913,000	群馬大学	6,346	0.3%
首都圏	埼玉県	7,337,000	埼玉大学	8,452	0.1%
	千葉県	6,266,000	千葉大学	16,026	0.3%
北陸	富山県	1,017,000	富山大学	9,279	0.9%
	福井県	753,000	福井大学	5,072	0.7%
甲信	山梨県	802,000	山梨大学	4,751	0.6%
	長野県	2,020,000	信州大学	11,040	0.5%
東海	岐阜県	1,946,000	岐阜大学	7,382	0.4%
	三重県	1,742,000	三重大学	7,240	0.4%
関西	和歌山県	903,000	和歌山大学	4,517	0.5%
	鳥取県	544,000	鳥取大学	6,241	1.1%
中国	島根県	658,000	島根大学	6,115	0.9%
	岡山県	1,862,000	岡山大学	13,537	0.7%
	広島県	2,760,000	広島大学	15,701	0.6%
四国	山口県	1,313,000	山口大学	10,180	0.8%
	香川県	934,000	香川大学	6,499	0.7%
	愛媛県	1,306,000	愛媛大学	9,169	0.7%
九州	高知県	676,000	高知大学	5,501	0.8%
	佐賀県	801,000	佐賀大学	6,614	0.8%
	長崎県	1,283,000	長崎大学	9,280	0.7%
	熊本県	1,718,000	熊本大学	9,874	0.6%
	大分県	1,107,000	大分大学	5,442	0.5%
沖縄	宮崎県	1,052,000	宮崎大学	5,518	0.5%
	沖縄県	1,468,000	琉球大学	8,050	0.5%

※各県の人口は総務省統計局人口推計(令和4年10月1日現在)より。  
 ※国立大学の学生数は令和5年度学校基本調査(速報)より。

### 2 自分の活動が地域のトピックスになる

自分の研究・部活・サークル・ボランティア・地域活動が、地域の地元新聞の記事になります。ローカルテレビのニュースで放送されます。ラジオで流れます。そのほか様々な媒体で特集される場合もあります。学生は、インタビューを受けて質問に答え、取り組んでいることを言語化し表現したり、自分の作品・結果・発表の内容を伝達します。自己の活動の言語化により、地域で注目されていることを実感できます。

### 3 地域社会の課題解決に学生が貢献できる

地方では、地域社会の中で自らが主体的に動けば、学生であっても地域社会の課題に取り組み、社会に影響を与えることができます。地方の国立大学生は、自らが行動すれば、「地域社会を変えていくことができる」という感覚をもてます。それによって、社会の課題は「他人事」ではなく、「自分事」として主体的に考え行動することができます。巨大過ぎる社会の中でちっぽけ過ぎる存在であることよりも、小さな地域社会の中で存在を認められて期待される存在のほうが、自己という存在を強く認識することができます。

# 保護者の皆さまへのメッセージ

## 想像してください。今の高校生が 保護者と同年齢になる、約30年後の社会を。

現代社会の課題は、いくつもの要因が複雑に絡み合い、解決していくことが困難になっています。

少子高齢化をはじめ、老後、雇用、所得、格差等の問題が、今後より一層、複雑化します。

これから大学受験に挑む高校生たちは、

複雑化する社会の課題に対応した教育プログラムを提供する大学を、選択することができます。

旧来の大講義室中心の一方通行の授業しか提供できない大学は、有名大学であろうと、今後は次々と淘汰されていきます。

大学は、知名度や大学規模で維持されるものではなく、【教育】【研究】の場所であるからです。

今の高校生は、“受験偏差値”の尺度だけではなく、「自ら学びたい学問分野」と「成長できる環境」、そして「ともに学ぶ学友」を選べます。

主体性をもって大学で学んでいくことができれば、“高い専門性”のみならず、“豊かな発想力”と“柔軟な行動力”を修得できます。

これからの社会において、イノベーションを起こし社会を変革させていくことができるのは、

「他者と協働し未知なる課題に果敢に挑戦できる人材」です。

その際、解決に導く重要な視点は、「社会の課題を“他人事”ではなく、“自分事”として捉えられるか」です。

課題に対する、自分の“立ち位置(姿勢)”です。

人口の多い大都市では、面倒なことに対して「自分に関係ない」と思考し、“他人事”として捉えがちです。

他人の考えや周囲の雰囲気流されやすく同調圧力が強いのも、大都市の特性です。

地方ほど、社会課題は進行しています。だからこそ、多感な「大学生」の時に、大都市ではなく

地方で敢えて生活し、ひとり暮らしをしながら大学で学ぶことに大きな意義があります。

社会課題への感性を研ぎ澄まし、課題意識と使命感を強く認識することができます。

大都市を中心に「大学」の数が増え続け、私立大学では定員を満たせない大学が過半数です。

大学進学にかかる莫大で高額な費用からすれば、大学教育に対して、保護者はより正確な情報を求めるべきです。

大学の目的である「教育」「研究」の実態、入学者の在籍・卒業状況、学生の生活等を確認すべきです。

「子どもを手元に置いておきたい」という意向をお持ちの保護者の方もいるかもしれませんが、大学進学のその先を見据えましょう。

改めて、想像してください。

現在、高校生である子どもたちが生き抜いていく、“これからの社会”を。

保護者のみなさんと同年齢となる、約30年後の社会はどうなっているのでしょうか。

どんな社会課題が溢れているのでしょうか。

どんな生き方をしているのでしょうか。

どんな幸せ(ウェルビーイング)を手に入れているのでしょうか。

都市部の私立大学で学ぶよりも、地方の大学で学ぶことは、

“人生100年時代”を生き抜くヒントがあるのではないのでしょうか。

地方の国立大なら、社会課題を自分事として捉え、社会変革に挑むチャンスがあります。

「未来の社会を生き抜いていく力を得ることができる」。

地方の国立大を選ぶことの魅力です。

企画・制作・お問合せ



国立大学法人 富山大学 アドミッションセンター

〒930-8555 富山県富山市五福3190 TEL:076-445-6248

E-mail: acyamada@ctg.u-toyama.ac.jp

※「地方の国立大の魅力」の講演依頼や追加冊子のご要望等は、上記へご連絡ください。

富山大学HP

富山大学受験生HP



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。